

ワンツーワークス 演劇ワークショップ #16

「自分のクセを知ろう！」 —舞台俳優のための体・声・台詞術—

講師/古城十忍

インストラクター/奥村洋治・関谷美香子

アシスタント・記録/日暮一成・増田和・原田佳世子・小山広寿

日時/2016年7月9日(土) 18時~21時30分

10日(日) 13時30分~20時30分

会場/芸能花伝舎 B3

参加者/18名(男性11名・女性7名)

アシスタント・記録・レポート/山下夕佳

前回のワークショップ、#15のレポートは劇団員の安田惣一くんに任せてあるのだが、彼はおめでた続きで……結婚→嫁が出産！ということで忙しいらしく、とんと上がってきません……(涙)。待てば届くのか……このままなかったことになってしまうのか……？もし、楽しみにしていた人がいたら本当にごめんなさい(/ω\)

さて、気を取り直して！梅雨ど真ん中でのワークショップ開催となりましたが、今年は空梅雨……。なかなか雨、降りません。関東地方は水不足が心配。ワークショップ一日目、曇天。二日目、晴れ。雨は鬱陶しいけど少しは降ってくれないと……。ま、とりあえず始めますか！

—— 一日目 ——

ウォーミング アップ

★次に、立っている人は前に回って、両手を持って前に倒してあげる。お尻が浮かない限界まで上半身を倒す。
みんな柔らかい！

★身長が同じくらいの人同士でペアを作る。一人は長座して両手を合わせて真上に伸ばす。

もう一人は、その両手を背中の方からしっかり持ってあげて真上に引っ張り上げる。





★変形スキップ★

うーん……スキップの、前足を上に上げずに後ろ足を伸ばす……わかりますかね？あの～……ヒップホップの基本ステップみたいなことです。あれはその場でステップを踏みますが、前に進む。そして前に出したほうの足側（右足前なら右）に上体を曲げる。1歩1拍で頭上で手を叩きながら。合

わせて呼吸もつける。「足を出す・手を叩く・息を吐く」が同時。パートナーは自分の相手の動きをチェック。手足のリズムが乱れていないか？背筋は伸びているか？呼吸をしているか？

★パーツごとの緊張と脱力★

両足を肩幅くらいに開いて背筋を伸ばして立ちます。両手はまっすぐ耳の横を通って上に伸ばす。手のひらをしっかり開いて前に向ける。姿勢よく、全ての体の部分に力を入れて緊張した体を作る。

合図で体のパーツ（手首→肘→腕→首→上半身の順）ごとに弛緩させる。



上半身を腰で折り曲げるところまでいったら、パートナーは上半身に力が入っていないか縦・横・上・下に揺すってあげる。終わったら逆の順番で緊張させていく。

★瞬時に上半身を緊張させて止まる。両足は腰の1.5～2倍くらいに開く。腰から上半身を前に折って脱力した状態をスタートとして、一瞬で上半身を起こして、手を、左右・前後にまっすぐ伸ばす。速さが勝負！中心軸を意識して。手が左右の場合は肩と同ラインに手のひらがきているか。横から見てすべてのパーツが一直線上にあるか。前後の場合には、前の腕の手のひら・肩・顔・後ろの肩・手のひらが同ライン上にあるか。腰は真正面のまま。上半身のみを瞬時に動かす。



★重心を前後に動かす。体を一枚の板にして、前後にゆっくり動かす。足の裏が離れないように。姿勢よく、両手は自然に任せて体側に。マイケルジャクソンのアレです(笑)。前はわりと倒せるんですが、後ろにはあまり動きません。無理してやろうとすると、体の軸がずれますから、あくまでも体のラインは一枚の板のままで。

前にいこうとしすぎて腰が曲がるとか、後ろにいこうとして胸が突き出る……なんてことのないように。

曲をかけて、8カウントで前へ。8カウントで真ん中に戻す。8カウントで後ろに。8カウントで戻す。繰り返します。ゆっくり等速度で重心を移動させます。



★仰向けに寝て全身を緊張させる。床から腰を浮かせて、反りかえる。これも一瞬で。見本として奥村洋治大先生がやってみたが即座に足がつったので見本却下(笑)。



反りかえるくらいに緊張させた全身を、一気に弛緩させる。緊張と弛緩を何回か繰り返したあと、パートナーは、寝ている人の足先を両手で低めに持ち上げて小刻みに左右に振る。寝ている人がちゃんと脱力していれば、小刻みな揺れは足先から頭の先へ、波のように伝わるはず。



★腰つき呼吸★

これは全身リラックスして行います。膝を立てて仰向けに寝ながら大きく深い腹式呼吸をしますが、吸うときに腰を上げて吐くときにおろしま



す。先ほど反り返ったくらいの高い位置まで腰を上げます。息を吸うときに、おなか(腰)を一番高い位置まで上げますが、腹式なので、さらにおなかが高く盛り上がります。息を吐くときは背中がべったりと床にくっつくように。おなかをぺったんこに。

ローテーション

非常に解説が難しい……(¬_¬;)



まっすぐに立ち、頭から腰までの各パーツを順番に回していく。だるま落としのだるまの体をイメージしていただけるとわかりやすいかもしれない。(笑)

↑ 写真は下記解説の①④⑤⑥。

体の各パーツを、輪切りにして回していく感じ。①直立して、全身を真正面に固定。②顔(顔だけを左に向ける)③首(左に向けた顔を固定したまま首を左に回す→顔はさらに回転)④胸。(両手で空気を抱えるように軽く前に出し、胸を回転させる)⑤腹(顔・首・胸・胸の前に出した両手は、それまで回転させていった位置に固定したまま、さらに腹の部分の左に回す)⑥腰(腰を回すと一気に左に回転する。顔は後ろまでいく)→このとき重心は左足にすべて乗せる。したがって右足を床から離しても立っていられるはず。⑦右ひざを軽く曲げて床から足を離し、片足でバランス……以上のことをわが劇団では「ローテーション」と呼んでおります。でも、よっぽど時間をかけて訓練できるときにしかやれない。とっても難しい。



これを逆の順番で戻していき、最後は真正面に向いて立つということになる。……が、戻していくと各パーツがズレまくっていることがはっきりわかる。だいたい、腰を戻すと腹が勝手についてくるし、腹戻すと胸がついてくるし、胸の前で抱えているはずの手は戻りきれずに残っているし……てな具合である。ごくまれに「うまくいったかも」という自信があっても、最後の最後に両足のつま先が左右バラバラで軸がズレていることがわかる。かなり難易度の高い訓練であるのだ。

左の回転が終わったら右回転、そして戻す。姉妹品に、戻すときに顔→首→胸→腹→腰と戻していくバージョンもある。こちらも難しい。

発声

★あぐらをかいて座る。ゆっくり 10 カウントほど長音「あ〜〜〜」→そのまま滑舌「あ」10 回。「お」まで同じことを繰り返す。

★ペアを組んで向かい合って立つ。長音は二人同時にゆっくり 10 カウントほど。二人の息を合わせてどちらか一方が滑舌「あ」と言ったら交互に「あ」と言い合う。二人で 10 回……ま、5 回ずつの 1 音連続ですな。「お」まで。

★1 音連続★

毎回解説しているので詳細はいままでのレポートを参照アレ！「あ」行から鼻濁音まで。

★4 行セット★

これも定番で何回も説明しているので割愛します。脱力ジャンプで「あ行・か行」、腕振り下ろし音伸ばしで「さ行」、片足緊張ポーズで「た行」。これを 1 セットとして鼻濁音まで。

♪休憩♪

体の状態の変化に合わせたセリフの言い方

谷川俊太郎さんの詩、「朝」から一部抜粋。体の状態にあったセリフの言い方を探る。

体の状態は 4 つ。「硬い・柔らかい・重い・軽い」。曲をかけて、8 カウントで体の状態を作り、曲がきれたら 4 行のセリフを言う。体の状態を変化させることによって、セリフ回しや感情がどのような影響を受けるか？うまく影響させることができるか？体に合ったセリフの言い方、声の出し方って？

4 人 1 組のチームを作り、2 人がやって、2 人が見てる。ダメ出しや感想をビシバシ言い合う。

百年前、僕はここにいなかった
百年後、僕はここにいないだろう
あたり前なところのようでいて
地上はきっと思いがけない場所なんだ

「硬い体」って、そもそもどんなの？とりあえず体をガチガチに固めてみたら？「軽い体」は？天にも昇る感じ？なんだそりゃ！スキップしたい気分？セリフはどの体が言いやすい？……実践とディスカッションを重ねながら各チームで研究。



それぞれのチームで様々な意見、感想が飛び交う。多かったのが、「硬い体」と「重い体」の違いが出にくい、「柔らかい体」と「軽い体」の違いもよくわからない……といったところか。



どこかの誰かが「重心かな？」と言い出した。古城氏の目がキラッ☆と光る。すかさず、「そうです！『重い体』は必ず重心を下げた方がいいです。横に動かすと軽く見えるので体を動かすなら下へ下へ重心を移動させた方が『重い体』は作れます」。毎回、口をすっぱくして言っている“重心”というポイントに、参加者の方から気付いてもらえたことに大変満足顔のボスでした(笑)。



私の入ったチームでは、「“目線”はどうなるか？『軽い体』の場合なんかは顔が上を向いたってかまわないんじゃないの？視界が広がれば気持ちも変わるので？」や、「体を変化させているのに“セリフの速度や音量”が似たりよったりなのはおかしいと思う」みたいな意見が出ていた。演技後の、『『柔らかい体』のときは湯船

に浸かっているときをイメージした」との発言には「なるほどねー」の声。

8 カウントかけて体をマックスまでしっかりと変化させる。そこからセリフを始めるということを大事に。

詩の内容も加味して、体を使って表現することにトライ。

切なさ、絶望、喜び、希望……この 4 行だけの抜粋だからこそ、どうしても解釈できる内容になっています。ただの「あいうえお」の羅列ではなく、意味のある内容を口にしているということを自覚しながら、体の状態に合った感情でセリフを言う。

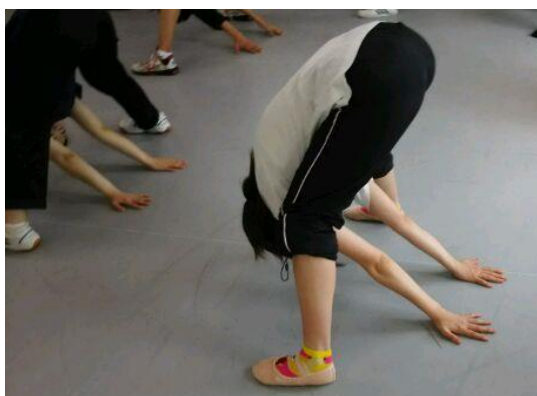
百年前、僕はここにいなかった
百年後、僕はここにいないだろう
あたり前なところのようできて
地上はきっと思いがけない場所なんだ

昨日は曇り空で、少し肌寒いくらいでしたが、本日は晴天なり。さささ！張り切っていこう！！

ウォーミングアップ

★足を肩幅の1.5倍くらいに開いて立つ。左手で右手首をつかんで頭の上に伸ばして全身を上へ引き上げる。そのまま左に倒す。腰を抜いてさらに倒す。呼吸を止めない。大きく息を吐きながら元に戻る。終わったら手を入れ替えて同じこと（右に倒す）。体側と腕のストレッチ。

★両手を体の真横に開いて（腕はまっすぐ伸ばす）手首を立てる（手のひらは外側を向く）。そのまま手首を軸にして小さく手のひらを回す。だんだん大きくして腕ごと手を回す。体の軸が前傾しないように、しっかりおなかに力を入れて。外回し、うち回し。



★足を開き、上半身を腰で折って前へ倒して、手のひらを床につける。両足は伸ばしたまま。足の間を通して手のひらを少しずつ後ろへずらす。両膝を緩めてみる。膝を緩めると手はもう少し後ろへ移動できるはずなので、さらに手のひらを後ろへずらす。この後が拷問です♪手の位置、頭の位置を変えずに緩めた膝をゆっくり戻す。「ヒ〜！」とか、「ギョエー……」とかの声があちらこちらから聞こえました。膝を伸ばすときはゆっくりね。腱が切れますから。（笑）

★ほか、股関節開きやら、猫の欠伸などのストレッチを繰り返しながら、ゆっくり体の各部位を伸ばす。



歩行

★必ずやります！曲に合わせて**姿勢よく**、素早く手足を定位置でキメながらの呼吸つき歩行。中心軸をまっすぐ引き上げて、その状態を保ったままスピーディーに！

腿は床と平行まで上げる。膝から下は床と垂直。つま先は下(ポイント)。

上げている足のほうの手(右足が上がっているときには右手)は**真横にまっすぐ伸ばす**。肩の延長線上。肩は上がらないように、首を長く。手のひらは下。もう一方の手は耳の横を通してまっすぐ上に伸ばす。手のひらは内側に。足を入れ替えるときに、両手でそれぞれの腿の外側を叩くようにして一瞬「**気をつけ**」の姿勢を作ってから次の足を踏み込む。同時に両手もすぐそれぞれのポジションに。



自分で思っているようにはなかなか体は動いてくれないものです。

一つ一つの姿勢を鏡で見ると、本人が一番驚く。最初のポーズでさえ自分の想像とは全く違う姿が鏡に映ります。顔は真剣なのに、全身に神経が届いていないのが緩んだ手首などにしっかり反映。まっすぐ上に上げたはずの手は開いてるし横に上げた手は後ろにいき過ぎているし……といった具合(笑)。床



と平行まで腿を上げるというのはかなり意識して引き上げないと上がりません。どこかの部位を、いつもと違うところに納めようとするだけで体ごと前傾、後ろに反ってしまう……などは、それぞれの体の硬さなどももちろんありますが、**本人の体のクセが原因**とも言えるかも。踏み出すごとに全身が左右に揺れるという人もいましたが、「歩くときに、踏み出すほうの足に一回一回重心を移してしまうので歩行が安定しないのだ」と古城氏。**軸を引き上げ、重心は体の真ん中に。**やはりこれが**基本中の基本**ようです☆

このほか、リズムに合わせて「ただ歩く」こともやりましたが、なぜか「なんば(同じ側の手と足が前に出る)」の人が続出！！結構なびっくり事件でした(´_`)

たまには意識して「ちゃんと歩いて」みよう。

発声

★手拍子に合わせてランダムに歩き回りながら、踵をつくごとに1音ずつ発声→「あ」「え」「い」……という具合。「あ行」は1拍1音、「か行」は1拍2音(倍の速さ)で、歩行も2倍速。交互に鼻濁音まで繰り返す。他の人がどこにいるのかも把握しながら、ぶつからないように。リズムを崩さないように。声が小さくならないように。歩行と呼吸を一致させて。

★ペアになって向かい合い、1音連続。

★3段階→詳しい解説は今までのレポートを参照あれ！

♪休憩♪

5種類の変化(スローモーション)

★表情の変化★

4人一組でチームを作り、2人がやって2人が見てる。

ゆったりとした曲をかけながら……真顔から怒った顔へ。15秒ほどでマックスの表情に変化させる。そのまま楽しい顔に。15秒たっぴり使って、スローモーションでゆっくりと。悲しい顔→やる気に満ちた顔→緊張した顔と等速度でゆっくりと表情を変えていき、最後は真顔に戻る。

終わったら、見ている人がそれぞれ、2人について感想や意見を言う。



★体の変化★

同じように15秒ごとで、体ごとに変化させていく。素の状態→怒った状態→楽しい状態→悲しい状態→やる気に満ちた状態→緊張した状態→素の状態。あくまでもスローモーションで！スローモーションは、変化がはっきりとわかったほうがいい。等速度で大胆にゆっくりと動く。もちろん顔の表情も大きく大胆に変化させていく。どうなるだろうか？感情は？姿勢は？重心は？軸は？15秒で、自分が考えるマックスの状態まで体と

顔を変化させる。

忌憚のない意見・感想が飛び交う。「○○君は余分な感情をつけ過ぎのような気がする。△△君の方が素直で伝わりやすいと思う」「“怒る”が、腰が引けて怒ってる体には見えなかった」「体を変えても目の色が変わらないのが変だと思う」などなど。半分ずつ一列に並んで一緒に。誰が一番良かったか？見ているほうは、超個人的な好みでそれぞれ判定。1人1票で投票。優勝者は誰だ？



4 種類の変化（セリフつき）

曲を変えて……今回のワークショップはステキな音楽にノリながら進みます♪ステキ……。

- ①せつなくてたまらない
- ②静かに闘志を燃やす
- ③とても大切なことに気づく
- ④諦めを受け入れるしかない

百年前、僕はここにいなかった
百年後、僕はここにいないだろう
あたり前なところのようでいて
地上はきっと思いがけない場所なんだ

★チームの人間を入れ替えてまた 4 人組を作り、2 人がやって 2 人が見てる。今度は合図を入れないので、自分のペースで←左記①の感情を作り、マックスまでいったと思ったら②③④と、次の感情に移行していくのだが、さらに……↓↓

①の感情になったら、昨日の詩（谷川俊太郎/朝）の 4 行のセリフを言う。言い終わったら速やかに②へ移行し、4 行の詩。③へ移行して 4 行の詩……というふうに進み、最後は素に戻っておわり。さてさてどうなるの?? 私たち自身もこんなことやったことないので興味津々。とにかくやってみよう!!

これは、スローモーションという指定がないので、ゆっくり感情を高めていく人もあれば、スッとその感情に入る人もいて千差万別。それぞれのペースでセリフを言いだすので、他の人のセリフがバンバン聞こえてくる。意識を集中しないと、どの感情をやろうとしているんだか、詩の、どの部分を言っているのかがわからなくなる(笑)。4 種類の感情はホワイトボードに書いてあるだけだし、詩の方は「昨日もう覚えたよね?」てなことで自分の記憶に頼るしかない(;-;-)

不肖、ワタクシめもチームの一員となりチャレンジいたしましたが……これは不思議な体験でした。4 つの感情は、強く打ち出せるはっきりしたものではなく、人間の感情の細かな、それでいて日常では意外と遭遇する、ふとした瞬間に訪れる感情。これを自分のペースで音楽を聴きながらセリフを言うのは、想像よりはるかに大きな感情のうねりをもたらすものでした。4 行ある詩を言うほどにその感情がどんどん高まり……もしくは絶望的な気分覆われ……と、増幅していく。いまさらながら、演劇ってすごいなあ。なんて思ったのでした。感情とセリフと静寂と音楽と……絡まり合うと瞬く間に違う世界が広がっていくんだなあ……なんてね。ちなみに私の眼前に広がった世界は荒野でした。(笑)

★この後、4 つの感情の移行を「0 秒でやりなさい」に各チームチャレンジいたしましたが、これはびっくりするほど難しく、日頃、感情のフットワークを早く早くと指導されている私たち劇団員も苦戦。それらしい顔をしながらセリフを言うが、「ウソだウソだ」という心の声が止まらない……私の荒野はどこへ? 目の前にあるのは教室の壁と、チラ見するホワイトボードだけ(;-;-)



どこのチームも意見として多かったのが、すぐに感情を移そうとすると、全体のリズム自体が速くなり、セリフ回しすらそのスピードに引っ張られて早口で言ってしまう。見ているほうにも伝わらず、演者の方も感触がつかめないまま終了してしまった……ということ。速くするのは感情の移行だけのはずなのに全部が速くなってしまうので、先ほどと比べると、セリフの一言一言が格段に疎かになっているのが分かった。

「台本の中には、すぐに感情を変化させてくれという要求をしている場合もあるし、ゆっくりと移行していいというシーンもある。いろいろな技術が必要です。それを踏まえたうえで、今までやってきたことを生かしつつ、この後の時間は、テキストを使った演技をしていきます。10分休憩するので、台本を出しておいてください」との古城氏の声とともに休憩&スタンバイ！

♪休憩♪

戯曲を使って立ち稽古

いよいよ実際に戯曲を使います。2日間でやったウォーミングアップや様々なアプローチのなかで受けた仲間たちからの意見やアドバイスを、果たして実践に生かすことができるか？古城氏が鬼演出家に豹変するのはいつだ？？

※今回は、テキストとして使用した抜粋部分が長いので、わたくしの個人的判断でさらにさらにつまみまくって掲載させていただきます。ご了承ください(>_<)

『幽霊人命救助隊』（原作・高野和明／脚本・古城十忍）より

若い男「高岡裕一」、懸命になって崖をよじ登っている。

裕一 ……やった！……頂上だ！

と、裕一が体を引き上げようとする、その前に3人の男女がぬっ、と顔を出す。「八木剛造」「市川春男」「安西美晴」である。

裕一 （驚いて）うわっ！（と、手を離す）

八木 危ねえ！……（反射的に裕一の腕を掴み、市川・美晴に）お前らも手伝え！

男女3人、なんとか裕一の体を引っ張り上げる。裕一、息が荒い。

八木 こいつは若いな。

美晴 あんた、高校生？

裕一 いいえ……。

美晴 じゃあ大学生？

裕一 浪人です。

市川 一浪？二浪？

裕一 ………。 （やおら立ち上がり、あたりを見回し） ……ここは……どこなんですか？

市川 天国ですよ。

裕一 天国？
美晴 あんた、死んだのよ。
裕一 はあっ？冗談やめてください。ドッキリですか？

———中略———

八木 思い出してみろ……ここへ来る前、おまえさんに何があった？
裕一 何がって……。

裕一、たった今、上ってきた崖の際までおそろおそろ近づき、下を覗く。

裕一 ……なんにも見えない。
市川 でもそこ、登ってきましたよね？
裕一 ………。 (覗く)
美晴 思い出した？
裕一 ……思い出せない。
美晴 ね、今、何年？
裕一 え……？
美晴 西暦。何年？
裕一 2010 年ですけど。
3 人 えーっ！
裕一 (驚いて) な、なんですか。
市川 もう 21 世紀なんですか、私が死んだの 88 年ですから、もう 22 年も経ってる。
美晴 ノストラダムスの大予言はどうなったの？
八木 (美晴を押し分け) 下界はどんなだ、どんなことがあった？
裕一 下界？
八木 おまえさんが生きてた世界だよ、88 年以降の。どんなことがあった？
裕一 (気圧されて) 世界は……91 年にソビエト連邦が崩壊して……
市川 ソビエトが？アメリカはついに核攻撃を仕掛けたんですか？
裕一 違いますよ。東欧の共産諸国が急に民主化したんです。
八木 日本はどうなんだ？わが日本は？
裕一 日本は、えーと、88 年以降ですよ、まず、89 年に昭和天皇崩御……
八木 ホウギョ？
裕一 「死ぬ」ってことです。
八木 天皇陛下が死んだのか！
裕一 ええ、死にました。
市川 じゃ昭和は終わったんですか？
裕一 今は平成です。
市川 へーセー？へーセー？今、そんな気の抜けた元号なんですか？

———中略———

八木 俺なんかな、79年に死んじゃったから、もう31年もここにいるってわけだ。
市川 今が2010年なら私は22年。
美晴 私はそれより2年早くここに来たから24年、やだ私、もう24年もいるの、私の人生も24年だったのに。
裕一 （なおも信じがたい）……ホントなんですか？
八木 嘘じゃねえよ。
美晴 にわかには信じられないと思うけど。
裕一 ……ここが、天国。

———中略———

いきなり荘厳な音楽が鳴り響く。

市川 （上を見上げ）見てください、あれ。
八木 パラシュート？
美晴 誰か降りてくる……

4人が見守る中、誰かが崖の上に降り立つ。

八木 誰だ、てめえは？
美晴 （ややあって）神？
裕一 神って、え、神様？
市川 （ややあって3人に）自分が神様だって名乗る人、下界にも結構いましたね。
美晴 大抵あとで壺とか買わされるわよ。
裕一 本物、なんですか？
4人 ……………。（神を見る）

———中略———

4人 ……………。（神の説明を聞く）
八木 胡散臭えっ！
裕一 人の説明は最後まで聞きましょうよ。
美晴 人じゃないわよ、神だって言ってんだから。
市川 でも神様がいたって不思議じゃないでしょ、ここが天国なら。
4人 ……………。（驚いて髪を見る）
市川 じゃないんですか？
裕一 じゃあ、ここは？
美晴 （ややあって）中間点？地上と天国の？
裕一 なんでそんな中途半端なところに……（ややあって）天国に行きそびれたって、（八木に）どういうことなんですか？
八木 じゃあ聞くがな、なんで俺らだけこんなところに置き去りなんだ？え？
美晴 （ややあって）馬鹿な死に方？

——中略——

八木　　ちょっと待った。今、「私が授けた命」つつたな。俺はな、散々苦勞して苦しんで、これでオサラバって覚悟決めて自分で「自分の命」を終わらせたんだ。てめえなんか偉そうに言われたかないね。

美晴　　そうよ、だいたいホントにあなた神なの？証拠はあるの？

突然、神様は巨大なライオンと化して炎を吹く。遙か前方に巨大な波が現れ、みるみる盛り上がって大津波となって襲いかかってくる。4人はなす術もなく絶叫——。と、水の壁が目前で静止。その壁から神様が現れる。4人はあっという間に横一列に並んで正座してひれ伏す。

八木　　（顔を上げ）どうぞ、なんなりと。

4人　　……。顔を上げて、神の説明を聞く）

裕一　　チャンス？

美晴　　……それって、私たち天国に行けるってこと？そういうこと？

市川　　やった、ようやく退屈地獄から解放される。

八木　　（市川を手で制して）で、埋め合わせって何をすればいいんです？

裕一　　（ややあって）命の償い？……って、（美晴に）どういうことですか？

市川　　（ややあって）あの、お言葉ですけど、誰に対して償うんですか？確かに私たちは自ら命を絶ちましたけど、私たちの命は私たちが自由にしているんじゃないですか？

美晴　　あの、命の償いとか弁償とか、とっても回りくどく仰っていただけてますけど、要するに私たちに何をしろって言うてるんですか？

八木　　（ややあって）奉仕活動？

市川　　何ですか、奉仕活動って？

市川　　（ややあって驚き）地上に戻るんですか？

美晴　　（ややあって）地上に戻って死のうとする人たちを助ける？

裕一　　え？じゃ奉仕活動のミッションって、もう一度元の世界に戻って、自殺しそうな人を見つけ出して、自殺を阻止するってことですか？

——中略——

4人　　100人？

市川　　100人も助けるんですか？

裕一　　無茶ですよ、そんなに簡単に人を助けられるんなら僕だって……

4人　　（驚いて）7週間？

美晴　　期限7週間でノルマ100人ってこと？

八木　　ちょっとお待ちを。我々の命の弁償ということなら、我々が助ける命は4人でいいんじゃないですか？

美晴　　そうよ、いいこと言った、そうよね。

八木・美晴　　利息う？

裕一 マジかよ。
市川 やらせていただきます。
裕一 マジですか？
美晴 いいわよ。私も 100 人だろうがやってやるわよ。天国に行けるんなら。
八木 まあ、そういうことなら悪い話じゃねえし。
裕一 (他の 3 人の視線を浴びつつ) ……やります。
市川 よっしゃ、決まり。

———中略———

八木 復唱？
4 人 (復唱) 死ぬ気になれば何でもできる！(復唱) 相手が誰でも、どんな事情でも、遠慮会釈なく助けます！(復唱) 片っ端から助けます！(復唱) ガッツ見せます、助けます！
八木 (と、背中を押され) うわ……！
市川・美晴 (驚いて見ていたがすぐに背中を押され) わ……！
裕一 (続けて背中を押され) うわぁ……

4 人は果てしない谷底に消えるように、地上めがけてまっさかさまに落ちていく。

と、まあ……メチャクチャ端折りましたが、『幽霊人命救助隊』という戯曲の導入部を❶から❸の 3 ブロックに、参加者は A から F の 6 チームに分けてチャレンジ！！

まずは一つのブロックずつ、どういうシーンを作っていくべきなのかを全員で確認。



❶(上の抜粋台本のブルーの部分)のシーンを F のチームで古城氏の演出を受けながらやってみます。

裕一は客席に向かってパントマイムで崖をよじ登る。「頂上だ！」と裕一が言った瞬間に、それまでしゃがんでいた(裕一のすぐ背後)ほかの 3 人がヌッと立つ。すぐさま裕一は体を反転して崖から落ちるマイム。その片手を即座に八木がしっかりと握って「危

ねえ！おまえらも手伝え！」のセリフ。3 人で裕一を引き上げ、同時に全員で尻餅をつく。裕一以外はすぐに体を起こして裕一に駆け寄り、怒涛のように質問をぶつける。裕一も正気に返らないまま質問に答えていく。

「好きにやってみて」から始めたけど、ビシバシ止められダメが入る。「“私は今、裕一を観察しながら質問をしています”なんて説明いらないから！演技で説明してはいけません。基本的に全部ゼロ。」
「3 人、4 人でリズムを作っていくことが非常に重要な芝居なので、リズムに乗せていく」「はい、ほら！早く倒れて！すぐ起き上がって裕一を囲んで！遅いわっ！」古城演出、来ました来ました(笑)。
「質問する側は、聞いたあと待ちに入らない、その気持ちを押す押す押す！」「3 人が押して来たら裕一は押されながら答える。押してこなくなったら自分のペースで答える。押し返してもいい。とにかく相手の出方を必ず受けて、どう出るかを判断すること」

②(上記抜粋台本のピンクの部分)のシーンはCチームで。

荘厳な音楽が鳴る。と、神が前方に現れる設定。神様の位置(目線)を4人で決めてスタート！
このシーンは、神を客席方向に架空に定めて4人で受け答えをしなければいけないので難しい。

しかも神のセリフも4人の間合い次第なので、神がどんな台詞を言ったか、その時自分がどんなリアクションを取ればいいのか、個人で考えるべきところと4人の呼吸でいかなきゃいけないところが混在。指定が多いのに台本も持っているので忙しい忙しい……。「基本、神が前方にいますので放っておくと横一列のままになっちゃうでしょ？チャンスがある時には大きくポジションを動かして」「セリフの前の“(ややあって)”っていうのは神様が喋ったってことですよ！勝手に気持ちを変えなさいってことじゃないですよ！神様のセリフを聞いて！」



ラストの、ライオンと化した神が火を吹くところや津波のイメージなども全員の空気感を統一させていかねばならない。

③(上記抜粋台本のグリーンの部分)のブロックはAチーム。神様の目線を前のシーンから引き継いで……4人、正座してひれ伏しているところからのスタート。

「八木さんは行儀が良すぎますよ、胡坐かいたっていいぐらい」「市川、そこはすごい驚いて！地上に戻るんだよ！神様が言ったセリフにものすごく驚いて『地上に戻るんですか？』と言ったところに、すぐさま3人で『しっ！』と黙らせる。合わせるところも0秒でしっかり合わせて！」「遅———いッ！」「すぐまた神を見て！遅———いッ！！」



このブロックのラストは、後ろから背中を押されて地上に落ちていくシーン。「背中を押された」は普通のパントマイム。「落ちていく」はスローモーション。両手を上に上げて膝を曲げていきながら下降を表現。セリフの切り替えしはこのブロックが一番気が抜けないかもしれない。架空の神様込みの0秒の応酬。プラススローモーション。頑張れ！！③ブロック！！

①は関谷女史指導のもとEとFのチームがやります。

②は奥村大先生指導でCとDのチームが。

③は古城鬼演出家が見ます。AとBのチーム。

ワタクシ山下夕佳めは、Fのチームで八木さん役で入り……関谷女史のサクサクした指導を受けさせていただきました。(笑)

2チーム同時にはできないので、AがやってるときはBが見ていて……という具合に入れ替えながらざっと通してやってみる。んで、夕食休憩をはさみ、さらなる稽古のち各チーム発表！という流れ。さささ！さっさと飯食っておしゃべりしてタバコ吸って、お稽古お稽古！！広島からの参加者からのお土産もみんなで食べよう。

♪休憩♪





休憩後は約 40 分間、みっちり稽古しました。



3 チーム同時での立稽古と、3 人の演出家の怒号？とで稽古場は大騒ぎですわ(笑)。そんな、大変な集中力を要するなか、皆さま頑張ってくださいました。



いよいよ発表です。①→②→③を入れ替えながら最後までいきます。それを 2 回。

①から③までを通して演じてもらって、見ているほうは感想を言い、そのあと古城鬼演出家のダメ出し。場合によっては小返し。そのあとチームを総入れ替えして①から③を通して、感想、ダメ出し、小返し。



シーン①のチームは、空気(場のムード)を変えるポイントはどこか？ということを重点的に稽古しました。

感想としては、「全体が空気を感じて動いていると思える部分はあったけど、まったりと停滞しているところも目立った」「もっと前の人のセリフと自分のセリフの間が詰まってくるいいと思った」など。



ちなみに私が混ざった回では「夕佳が浮いてる」と鬼演出家から非常に情けないダメ出しを食らい、あたしゃ超逆切れしてました(苦笑)。共演者の方たち、浮いてごめん(>_<)

◆鬼演出家からのダメ出し◆

「〇〇さんのまずいところは、セリフを言ったあとにスーっと何もなくなることです。一回一回気持ちを立ち上げてセリフを言うことになるから間が開くんです。喋ったあとってというのは、むしろその気持ちを押しでなきゃいけない」

「裕一が『ここはどこなんですか？』って聞いて『天国ですよ』って市川が答え、『天国？』と裕一が聞き返すでしょ？あそこは、役者もお客



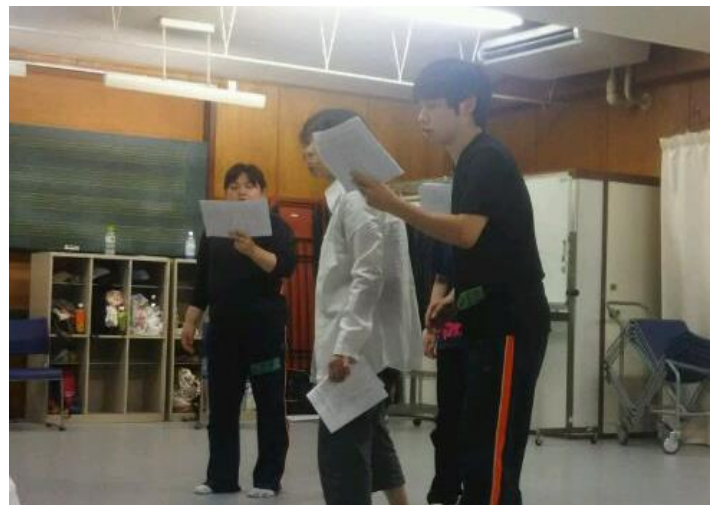
さんも裕一が理解するのとかどうかっていうドヨーンとした空気になっていくわけだから、そのあとは、“今まで遅かったから次のセリフあたりからはスピードを上げていこうね”みたいな**共通の認識**がなきゃいかんですよ、そのくらいは読み解いていかないと」

「質問攻めのところが一番残念でした。押す力が弱いから、裕一がズーっと同じ場所に突っ立ってられたんですよ。押し引きがないから**空気が全然動かない**。このシーンは裕一を同じポジションに居続けさせないゾーくらいの気持ちでやらないとダメです」

シーン②のチームは、奥村大先生が「効果音も全部俺が口で言う！」と宣言しており、神様の効果を奥村大先生が担当し、あとは**ポジションをなるべく変えていくことに重点を置いて稽古**をしたようでした。感想としては、「神と3人の会話の流れがよくわからなかった」など。

◆鬼演出家からのダメ出し◆

「シーンの会話の流れが組み立てられてないんですよ、だから立ち上がっていかない。でもこれは、それぞれがほかの役者のセリフを聞いていればどんどん上がっていけるようになってるのにそうならない。前がこうだから、こう出ましたっていう**掛け合い**になってないから、ひとつも会話に聞こえませんでした」



「3対1、4対1の掛け合いのシーンのはずなのに役者が好き勝手やってるからそうならない」「**セリフの組み立て**をきちんと理解してやってほしい」



シーン③のチームは古城鬼演出家が稽古をつけていたので、緻密な演出が入ったことと思われます。

感想としては、「合わせることが多いので、まあまあ合ってはいるんだけど、合ってるだけではダメで、役の個性と、役者本人の個性がもっと出ないと思うがないんじゃないかな」「△△くんが、なんだかよくわからない。□□さんは喋りがもごもごしていて何言ってるんだかわ

からない。☆☆くんも何をやりたいんだかがわからなかった」などなど結構辛辣でした。

このシーンはね……「台本持ってやるのは辛いでしょ」と、私は思った。



★鬼演出家からのダメ出し★

「神が出てくると、やはりすごく難しいんだけど、神のセリフの次に自分のセリフがある人はいいいんだけど、ない人はどうしても反応が遅くなるんですよ。でも、同じようなこと思ってるはずじゃないですか。だから大きく反応した方がそれぞれがもっとセリフが出やすくなるはずですよ」

「いたずらに早くする必要はないんだけど、パンパンと会話が進んでる中に静寂、視線の集中、そのうえで

それぞれにリアクションがつくと、神の存在も伝わりやすいし、メリハリがつくんです。だからリズムは非常に大事」

「〇〇さんの体とセリフがフラフラするのは、目が定まっていないからです。目線をしっかり決めると体も声も格段に安定するから、対象をしっかりと見ること」



いやー！！長い時間を大変お疲れ様でした！！古城鬼演出家も言うておりました。「本来はセリフを覚えて台本を離した状態でやった方がいいに決まってるんだけどね」と。しかしまあ、先に台本を送って「覚えてきてください」なんてことにしちゃうと、自分の家で勝手に役をこねくり回しちゃって、いざやりましようとなっても、“大切に温めてきた演技プランをただ披露するだけ”みたいな例が過去に何回もありましたのでね……その場で読んでダイレクトにセリフを発していただくのが一番よからうということで、みなさんには忙しい演技をしていただきました。



では、古城十忍氏のごあいさつにて、このレポートもおしまいにさせていただきたいと存じますです。

「長い時間かけて戯曲以外のこともやりましたが、なぜあれが戯曲につながるんだろうって、まだぴんと来ない人の方が多いだろうとは思いますが、**全部、ぜーんぶ関係あるんです**。そのことに、できるだけ早く気がついていただけたら、私もうれしいです」

だそうです★古城氏にしてはずいぶん殊勝な優しい締めのご挨拶でありますよ(笑)。……年、取ったかね……なんてな！ではでは皆さま！お付き合いありがとうございました！

さあ、飲みに行きますよお！

